

東日本大震災から8年

観光の力でさらに前進を

震災の記憶、風化を防ぐ 東北4県と東京都がフォーラム 復興へ新たな取り組みも紹介



モデルの武田玲奈さんを交えたトークセッション



郷土料理のコーナーに各県のゆるキャラが登場

工芸品の製作体験などの各コーナーで東北各地の魅力をアピールした。
イベントは東京都と、青森、岩手、宮城、福島、東北4県の実行委員会が主催する「復興応援・復興フォーラム2019」(東京、東京国際フォーラム)を会場に、一般消費者を集めて行った。オープニングには福島県の内堀雅雄知事をはじめ、東北4県の関係者が復興への取り組みを語ったほか、物産販売、

東日本大震災の記憶の風化を防ぐというイベントが2月10日、東京都内で開かれた。福島県の内堀雅雄知事をはじめ、東北4県の関係者が復興への取り組みを語ったほか、物産販売、

8年。東北の復興は着実に進んでいる一方、難しい課題も抱えている。解決のため、東北の魅力を発信し、観光を通じて復興を支援する。東北の魅力を発信し、観光を通じて復興を支援する。東北の魅力を発信し、観光を通じて復興を支援する。

桜巡りで被災地復興 東北のシンボで事業アピール

桜を題材に東日本大震災の被災地復興を目指す東北の行政、観光関係者などが、復興に向けた取り組みや提言を述べた。協議会が推進する東北の桜巡りや酒蔵巡りの事業を一層周知すべきとの声が多く挙げられた。

協議会では、被災地復興を推進するため、春以外の季節も東北の名所を巡る企画を実施。夏は祭りを巡る「東北祭り街道」、秋は酒蔵と紅葉と温泉を巡る「東北酒蔵街道」、冬は雪景色を巡る「東北雪見街道」を行っている。

山形県かみやま温泉(日本一の宿古窯の佐藤洋詩専社長は、風評により観光客がほとんどいなくなつた当時を述べ、東北の復興を支援する。被災地の復興を支援する。被災地の復興を支援する。



東日本大震災の記憶や教訓を語り継ぐ「第2回東北被災地語り部フォーラム2019」

意識を国内はもとより世界中に広げよう」とあいさつした。パネルディスカッションは「みんなが語り部をテーマに、被災地のパネリストらが意見を述べた。

沿岸被災地 3県知事 観光復興へのメッセージ

岩手県・達増拓也知事
復興のシンボル「リアス線」
W杯開催で注目集める年

東日本大震災から8年が経過した。被災した東北各県では観光復興が着実に進む一方、原発事故による風評被害が残るなど課題も多い。官民の観光関係者は関連事業を各地で行い、被害の払拭など課題の解決に努めている。

岩手県では、これまで県民一人当たり1000円程度の観光収入が減少していた。震災後は観光客の減少が顕著となり、観光収入も大幅に減少した。

福島県・内堀雅雄知事 「ホープツーリズム」推進 食とインバウンドの融合

東日本大震災の発生から8年目を迎えます。この間、全国の観光客が減少傾向にある中、福島県では観光客の入り込みが震災前の水準を回復し、観光収入も増加傾向にある。

宮城県・村井嘉浩知事 3世代・家族層ターゲット 体験型中心に県の魅力PR

宮城県は、国内外の皆さまの温かいご支援や協力をいただきながら、東日本大震災からの復興に向けて歩みを進めています。

宮城県は、国内外の皆さまの温かいご支援や協力をいただきながら、東日本大震災からの復興に向けて歩みを進めています。

宮城県は、国内外の皆さまの温かいご支援や協力をいただきながら、東日本大震災からの復興に向けて歩みを進めています。

宮城県は、国内外の皆さまの温かいご支援や協力をいただきながら、東日本大震災からの復興に向けて歩みを進めています。

宮城県は、国内外の皆さまの温かいご支援や協力をいただきながら、東日本大震災からの復興に向けて歩みを進めています。



東日本大震災被災から8年が経過しました。復興のために、全国の皆さまから多くのご支援や励ましをいただいております。

東日本大震災被災から8年が経過しました。復興のために、全国の皆さまから多くのご支援や励ましをいただいております。

東日本大震災被災から8年が経過しました。復興のために、全国の皆さまから多くのご支援や励ましをいただいております。

東日本大震災被災から8年が経過しました。復興のために、全国の皆さまから多くのご支援や励ましをいただいております。